社団法人 名古屋西法人会 講演会

「地域から日本の未来を考える」

日　時　平成24年2月3日(金)
場　所　ウェスティンナゴヤキャッスル
講　師　第29代航空幕僚長
田母神 俊 雄 氏

“日本派”の政治家がいない

いまご紹介いただきました危険人物の田母神です。危ない奴だと叩かれまして、こんなに背が小さくなってしまいました(笑)。

私は日本の国が大好きで、「日本の国はいい国だった」と論文を書いて、3年前クビになりました。でも世界中で自分の国を褒めて公職を追われる国はありません。「問題を起こすな。正しいことを言うと問題が起きるから言わなくていい」という政治スタイルが日本をダメにしたと思います。

外交でも一歩下がって問題をまとめると、そこがスタート地点になり、また問題が起きるとまた一歩下がる。この繰り返しで日本の立場がだんだん不利になっています。

国際政治は富と資源の分捕り合戦です。

第二次大戦までは戦争をして富や資源を分捕りに行きましたが、いまは情報合戦の時代になりました。

いま日本は中国派とアメリカ派が勢力争いを繰り返している状況で、“日本派”の政治家があまりいません。しかし、それでは日本は損するばかりです。

アメリカや中国による日本侵略

戦後、米ソの冷戦構造のなかで、日本はアメリカと国益が重なるためアメリカに守られ経済発展するという、戦後復興にとって極めて恵まれた状況にありましたが、1991年冷戦が終わって、アメリカは経済戦争で最大の脅威になるであろうと日本を経済植民地化しようとしているのです。

1993年の宮澤・クリントン日米首脳会談で、年に一度日米間で年次改革要望書を交換することが決まり、2009年まで約20年近く行われました。

アメリカの要求は具体的で、かつ実現するまで執拗に要求してきます。

日本はアメリカからの要求に100点満点の解答で応えようと努力し、要望は2～3年で法律になる状況が続いていますが、次から次へと作られた法律は企業経営者の手足を縛るものばかりです。

年次改革要望書は2011年から要望書の交換ではなく日米経済調和対話に形を変えましたが、内容は年次改革要望書と違いはありません。

昨年の4月8日民主党政権は規制・制度改革委員会がとりあげた132項目を閣議決定し、7月1日から実施しましたが、日本を中国にくれてやるというような内容でした。さらに恐ろしいのは外国人住民基本法が閣議決定されようとしていることです。

日本に来て5年経つと、不法滞在者であろうが密入国者でも関係なく、日本人と同じ権限を外国人が得られる法律です。こんなバカな法律がありますか。

日本は軍事的に侵略される心配は少ないと思いますが、法律を変えて日本の中から壊されてしまうのです。

日本はもっと軍事力の強化を

国を守るには軍事バランスが必要です。「戦ったら負けない」という形にしておかないと、相手の国は外交交渉に応じてくれません。軍事力は外交交渉のテーブルの上に引きずり出すためにあるのです。

以前、前原外務大臣や菅総理大臣がロシアに抗議しました

が、無視されて終わりでした。軍事力が弱いからです。核兵器を持っているか、いないかによって国際政治をするときの発言力は天と地ほど違うのです。

いま国際政治を動かしているのは核武装国です。

20年前の日本は中国の海軍や空軍を相手にしていませんでしたが、中国は毎年軍拡していき、日本は軍縮し、いまや中国は日本を圧倒する軍事力です。2020年までに原子力空母を含む空母を6隻持つと宣言しています。

空母を持つということは海上に飛行場ができるということですから戦術が変わるのです。いま中国は沖縄諸島を中国領土にしようと狙っています。

人種平等の世界をつくった日本

自衛隊は日本の法律に沿った活動しかできません。

それ以外の事態が生じると自衛隊は行動をストップして、国会で法律が成立するまで動けないのです。

それは「日本はかつて侵略戦争をして支那や朝鮮に迷惑をかけた。自衛隊はあまり強くならないほうがいい」という自虐史観に取り付かれているからです。

しかし、日本は支那を侵略したのでもなく、好戦的だったから日米戦争になったわけでもありません。戦争をしかけられて、やむを得ず立ち上がったのです。

白人国家は15世紀くらいから有色人種の国を植民地にして、第二次大戦まで、有色人種の人たちを牛や馬同然に扱っていました。それが人種平等の世界になったのは日本が戦ったからです。

白人国家の植民地主義に終止符を打ったのは第二次大戦における日本の戦いであったのです。

タイのククリット元首相は「我々がいま白人国家と対等な口がきけるのは、身を殺して仁をなした日本というお母さんがあったお陰である。日本という

meisei 146_0323.indd 6-7 2012/03/23 10:59:19

お母さんは難産で母体を損なったけれど、産まれた子ども、すなわち東南アジア諸国はすくすくと育っている。

昭和 16 年 (1941)12 月 8 日真珠湾攻撃の日は、日本が我々子どもを守るために重大な決心をされた日である。この日を我々は忘れてはならない」という言葉を残しています。

ビルマやインド、インドネシアなどの東南アジアの首脳たちは日本に感謝しています。

我々は人種平等の世界を作るために日本が果たした歴史的役割をもっと肯定的に評価していいし、誇りとして子どもたちに伝えていいと思います。

日本は支那や台湾、朝鮮半島を植民地にしたわけではありません。

朝鮮人も帝国議会の国会議員になっていますし、陸軍士官学校を出て帝国陸軍の将校になって、日本人の兵隊を指揮する場面はごく普通でした。

また日本政府は日本人と分け隔てなく金鵄勲章を与えています。白人国家がとった愚民化政策とは対局にあります。

日本が侵略国家だと言われるのは、アメリカによって「正義の国・民主主義の国アメリカ、極悪非道の独裁国家日本」という歴史教育が占領下でなされ、いまもその延長上にあるということです。

弱い放射能は危なくない

昨年、東日本大震災が起き、放射能汚染が騒がれていますが、福島県原発周辺の放射能は全く危なくありません。

アメリカ軍が日本から逃げたのは、これを機会に日本人に放射能の恐怖を煽って「核武装をするなどとんでもない」という機運を作ろうという国際政治上での腹黒い動きです。

「弱い放射線でも浴び続けると突然変異が起きて危ない」というＬＮＴ仮説は間違いであると、1982 年にアメリカの宇宙飛行士の身体検査を担当してきた博士が論文で書いています。

宇宙飛行士は、宇宙で累積 200 ミリシーベルトの放射能を浴びるのですが、免疫体系が強くなっているし、がん抑制遺伝子も活発に働くようになっている。

それは人体のＤＮＡが放射線でやられても常時修復作業が行われているからで、放射線は瞬間にどれだけ浴びるかが問題で、累積は意味ないのです。

日本の弱体化のために利用されないように、日本は歴史と放射能に対する認識を改め、「自分の国は自分で守る」という方向に行くべきだと思います。

※この記事は平成24年2月3日の講演を要約したものです。

文責（社）名古屋西法人会

meisei 146_0323.indd 8-9